中村俊定文庫
文庫 18
522

宮城県図書館蔵

安永五丙申春

紙業

指象坊夜庭

中村俊定文庫

東路の戦神若士八隈小川の男士也北まより伝説を始め風を
芭蕉翁の実情を探りて義母便りを伝やり明石に拠り考てい
阪若者より尾くゝ小の出部を所々一頭まるのくい信濃を所中に
いかゝ土人の実をむくて吟つゝみ山辰八味代代けゝ板赤いゝ
花名の果試紀一松浦八書古神ゝ茶を居なかゝ琴乃月を武
ゝゝ川豊の故と東ゝる小かゝまゝ八潜琴八雄毛平
元文四のゝゝゝゝ名ゝる昔ゝ孫つ悪代
ゝ名詩つ人ゝ交ゝゝゝ武ゝ蛙ゝ
ゝて又東部一ゝ蓬小治池雪ゝ流ゝ沼ゝ青東ゝ
詩京あり実小四交ゝ英ゝ嫁中ゝ乱ゝ拾ゝ旅ゝ
小ゝて俳諧ゝゝも時ゝゝゝ潮三十余巣之
二流八河ゝ獨歩ゝゝ出ゝ潜琴の巻ゝ入ゝ伝説八
寳ゝ止ゝ古ゝの虚実ゝ月ゝ

世と接ふ故の月やあら八春

柳庵小婦人あるべ
市中の例に倣ふ
たかし

隠家や篠をあるじも沢庵

元日

初東風や海を渡りて来て吉野

菊貫

莫大小向みの乃の面かな　夜庭

年の逝く袖の小蝶のゆくへ　氷室

春興

花紙ゝ見る岩の根竹うな

夜庭

雪や暦もいまぬ牛乃奥

氷室

三朝

蓬莱や的皪はいろぎ松の色　英車

子の刻の間に落る屠蘇の香　夜庭

宮小いと帰る のたもいまて　虎溪

春興

少年や乳人とともに柳うな　夜庭

七竹やうぶ毛とる雪の雨　虎溪

歳旦

我が宿や又ひとつ高くなる家の春　青棠

寺の春花嘉木ともに小梅　夜庭

ちりぬるを人の春たが引く　氷室

春興

うぐひすの九日なぶるこゑ　夜庭

美竹や枯れ葉の間ふる雪　氷室

青陽

人もこれ春ぞ[illegible]一ふし梅の花

一吹東風の笛を長閑なる　夜庭

春を告る夏を経小波をそえて　虎溪

春奥

一日を惜む一日をさそむる中　夜庭

行の川水をせくる柳かな　虎溪

立春

春の来て小雨小春の白ひる和　李庭

九日こそ[illegible]ひすの新　夜庭

伏保姫の[illegible]水清きをそえて　氷室

春奥

[illegible]の名乃梅ふたりふやうの菜つま　夜庭

川舟の梅を[illegible]たれる月　氷室

東君

篠頃

爲帽子着て向ふ日野山やゆの春　夜庭

東風よ雪を散らす武蔵馬　虎溪

雪景に古稿の孫をほくろひて

春興

四方朝霧の海に咲うる庭の海　夜庭

かすみ消ふのおもはくたちぬ　虎溪

年朝

十万家たつ暮や不二の波　穐人

竹の秋うすき雲入るる風　夜庭

音信を笙に吹るる鶴似て　氷室

春興

雪や帰る雲はる切

瓜とり切の詩の吟ふ篠草　夜庭

氷室

詔光

[illegible]地を和合の文字や菊を[illegible]　夜光

梅り香通ふ窗も香乃圖　夜庭

橘叩み思ひも寄らぬ琵琶やて　虎溪

春興

七種やたもひ[illegible]ふい橘より　夜庭

風詮よ折く毒乃白ひる　虎溪

聖節

府中城あるふ門やの乃書　夜景

古酒乃穀[illegible]の笛　夜庭

[illegible]の山治載ふも書ふを　氷室

春興

[illegible]や蹴く拍乃[illegible]円　夜庭

貝拾ふ[illegible]仙[illegible]蓑つを　氷室

事賀

きてをや塚ゝ狐の脱けし矢　鶴天

弐尾よ吉のこゝけや初日乃出　弄月

松乃門海なし里もけすくさし　可暁

梅小そからふてこゝも皆乃春　倚流

年越ゝ男まいりこぬ初日小　馬庭

門吉やよゝもや松ゝ一と思ふる　紫山

投物よゝれ屠蘇の香や毒の吉　文橋

神風やそ門松小ゝゝゝ初　哥庭

雑旦

元日い根堂人ゝ鶴乃春　素行

注乃ゝ吉ゆゝ陸ゝや窗の吉　京悠

龍夢吉夢ゝ吉ゝ事のあゝゝ今朝の春　如流

のつゝゝと毒よ笑吉や初日乃出　信風

踏都てひろゝゝあゝゝ紙の吉　兎川

初日乃出ゝゝゝのゆ海乃上　嵐子

福吉ゝきのふ咲ゝに吉い年吉　苓社

依保姫の水二ゝ那ふ笑吉や事　菊田

解放も待つ[illegible]
やり初るや[illegible]んん一ツ星　希言
初雪や市[illegible]たよ[illegible]会[illegible]　杉羽
水仙の[illegible]に咲や福壽艸　立時
[illegible]を海老の鬢[illegible]の春　一葉
眼白行[illegible]門の春かな　買鏡
[illegible]屠蘇の酔[illegible]玉の春　東童
末廣く咲や扇の福壽艸　夜喬
笑の戸と開市はせきの明の春　似交
　　蘭陵

歌仙

嵯峨や一[illegible]
[illegible]の[illegible]の春　夜由
[illegible]の羽を[illegible]心や[illegible]の春　露醉
[illegible]や[illegible]扇の[illegible]　女布柳
[illegible]小[illegible]の春　素由
[illegible]の[illegible]や明の春　鳥林
[illegible]の[illegible]の声　萬頂
[illegible]の[illegible]　柳塘
[illegible]人[illegible]　伊由

新歳

蓬莱に向ふやこゝの門新　花桂
睦一の門やゆきかたゝ松　柿丈
神乃言をせんそ人乃春　紀葉
こゝは月の的も逃まじらん　鳩方
人の氣は風さしたなり花の春　甸之
みな松ゝ殿くまさやゝ門勝　麥英
神宮や伊勢よりもむむ乃春　梅九
春さやゝ神宮もかゝ夜日の光　素琴

埃ふみかの物ゝ的乃春　錦二
面白や笑ふく笑新も福寿草　莞遊
南ゝ一咲ふみかゝ福寿草　紫閣
名川ゝ一のさや勝炭　司陽
根ふ根書ゝかゝ神の春　里蝶
蓬莱や一源松の風ゝ　有為

三月　春

ゝ先て此塗ゝ所ゝす鶯の春　門要
春ゝやそゝひゝつの至ゝ　卷阿

春興亭仙

ゆるす東机をみ云すてたる六く乃ちきを
宮に旅きしてもか他の俳諧をおもうみ
おもうき

芽出梅るき乃古ひや朧月
沈りし蛙の声故　待鶯
まく余花ぞさした旅と寝られて
せいしさに鳥鳴は譲りけぬ
行列は冬ぶえ並ぶ町はつき
虎りは牛も韓み召しける

夜庭
伊由
露酔
柳塘
素行
布柳

いそしく婦乃身請のそけみ
挨と拂ふて祈ぞ神楠
凱陣ふ席て伸しく盤を判
一眠　皆乃使　居眠る
乱み明くなりも壓しのまれ空
狸も罠み懲る踊らぬ
涼くみ斧も實のへル秋田頌
芒庵もうもては留るまで下冷
角力をは小かしうるもて負きらひ
名百石取る著てく　別當

夜由
乙賀
哥庭
鳥林
素由
萬頃
柳塘
露酔
伊由
夜庭

花ゝ多ふあゝ嵐乃芦良鳥　布柳
醉ゝゝゝゝゝ　素行
ゝ途い船と隠れ　乙賀
相武くゝ石井は滅　夜由
掻立ゝ簾おゝ開ふゝて仕巳　哥庭
右も左りも知ゝぬ狀象　烏林
清田植ふ祭りゝ人通り　萬頂
雲まゝ伊達ゝ繰て夕業　素由
簾ゝ中ゝ碧く鶏の音うなし　夜庭
寺も捉の碧ゝ三代目　伊由

箔垂ゝ雲さいゝを叮ゝ心　露酔
乳母より丈のゝる振袖　柳塘
買ふ宝のゝも笑ゝさゝ宵ゝ　哥庭
恒越ゝ雪乃稱る木　乙賀
利立の尼い狀ゝに涼ゝ　素行
ゝ水小狀ふ滝のゝゝ糸　布柳
ゝ乃くゝと笑ふ俄笑的後ゝ　素由
掛ゝゝ宗は俳ひ象　烏林
折もゝゝ汁も鶏ゝ毋乃宿　夜由
折ふ帳いゝれ生山　萬頂

春興

春はて顔と言ふもかな
ものうくもやはたゝく春の稲荷の山　菊員

梅の香や不二路もとの遠間より
雪や解さゝと竹と流せくなり　井崇

人のやとゝ名ゆくも小松原
憩さゝぬ東坂の岩や春の月　李茶

雪解の谷の撫子や蜜蜂
遠山さゝやさゝ春の花　李庭

篠の武蔵野一帯紅色の野
花の宵里人帰るや凡巾　簾頂

春雪の雪の白ふ梢や書の家
雪の雪の白ふ梢や窗の梅　秋人

雪や春の光やまるる蘆さき　可暁

長閑さよ出の岩屋田金屋　高卧

雪さき春の帰さゝ鶯乃奥　倚流

さゝ宮記風の光ゝ雪や猫　夜光

春風の不乃岩吹山すを解ル　夜景

雪の武蔵野一帯紅色の野
花の宵里人帰るや凡巾　李雪

長閑さよ出の岩屋田金屋　可暁

雪さき春の帰さゝ鶯乃奥　倚流

さゝ宮記風の光ゝ雪や猫　夜由

春風の不乃岩吹山すを解ル　女 布柳

鳥林

乙賀

夜川

待宵て芒す畠やたまとり　露醉
雲みねしゝもあらやはゝ　伊由
ゝ茅やゝ雲のゝ下れの多　素行

、

蟋蟀なくなるゝ日也茅葺橋　箕山
雪ゝ雪やゝ和窓飛く蕎の音多　文足
留守ゝ事ゝ人行らゝや門の柳　長舍
吹ゝゝ北ゝ方ゝ色を柳の音　楽門 故道
乙法ゝの屋ゝ藤のあてや梅の花　李ゝ

歳暮

厨ゝ肥ゝ鴨あり空しの蕎　菊貫
河ゝ家ゝや中ゝ大津の牛ゝ川ゝ　耳棠
鳴ゝゝみのゝ多ゝ百声年の暮　英車
蕎物ゝ事ゝの音ゝ宵　師ゝ　李萊
ゝにゝゝ歌ゝゝの雑ゝや事の蕎　李庭
門ゝゝ人ゝ事ゝ年ゝ月ゝ大ゝ十日　簾頂
月ゝ事ゝ月ゝ也春ゝや法　新　炑人
年の瀬や昼も濡ゝ人通り　夜光

いさ松の齢ひさしけらしなり
夜景

まちかねし一夜の春の翠
鶴天

買花の物うれまさるとしの市
弄月

いさ磯くまもなき世の瀧
可暁

年の内よりやうやうふや候の上
倚流

君が代や昭和の園も清かなり
馬庭

芳野くハ川上ふるるとしの奥
素行

子に富かよ欲年一年の暑
紫山

船人の陸く働く師走の車
文橋

[illegible]

脱そにさまつぬ物や年の翠
哥庭

山里も文く淺灯や春の名
京秋

[illegible]
如流

[illegible]
信風

[illegible]
兎川

[illegible]
嵐雪

[illegible]
苓社

年の坂負す岩[illegible]
菊田

春の波人も海くや着市
希言

掃き捨て二十日の門の松葉哉　杉羽

まくらもとなる畳の仕来り哉　立時

来る春の世界さくら梅の花　一巣

文月の末の尾白一つの毒　買鏡

ゆらいに今日の心地大三十日　虎童

寒の戸とたつれば関の年暮ぬ　夜喬

憐れ蕨蕨のくせ者や年の宿　蘭陵

人のこと毒舌乱れの事の毒　似交

節季狂の言ひつゝ年の言　萬項

来る春の暦はいとや煤くゝめ　布柳

年波の打寄よりり　露醉

山寺や新よ食事の蹴こゝろ　柳墻

伏保姫の言やゆゆ乃衣紀り　伊由

言迷乃言葉調へやとゝの言　夜由

年尾

能新よりて誠こゝや年の関　花桂

建無て去ぬ川ゝ松や弁　紀葉
身乃煙もさゝつゝ生ル元拂ハ　柿丈
一艘ハ乃家なら寺師走川　梵言
まこ乃濱も安うゝん茂ゝ　鳩方
燈燭とロ孤年の歌ゝ　旬之
稲も凋ゝ〜ゝ孤ゝう係英の淫　錦二
も知る知ゝもせゝ寺の内　麥英
ゆ房のかゝせゝゝすゝゝゝゝ　素琴
面公の去を孤ゝや乃毒　莞樓

学問ゝりと頁せゝく慶建の市　司陽
ゝゝ孤去ハ陽ゝ大之午日　紫閣
大乃ゝ祇ゆ競ん之ゝ乃市　里蝶
福寿艸笑新作ゝや年の美　有為
ゝゝゝゝゝゝ寺の孤面魚　簾雨
り寺のすゝゝ知孤ゝ乃去書　梅九

年梢　到來順

寂ぬ人ゆ美と夢ゝゝや小晦　宝馬
炮煙の春石孤宿孤影ゝゝひ　珠來

雲へ出る月をや一層の月ぞ　冬葵

春ぞ来く梅の心も極せ利　柳尾

鬼ぬ出来内くとうせん叫乃庵　不言

陣の影乃白きを見るの陣を弐　雪斉

魚を に活とや九年壁詩話　糸叔

四方式おさえん於う老の重　英鵠

春迎小庵の冨岩や岸二俵　石鄕

稽魚ゆかしはるや連一夜　雨澤

大年や寒ら海りの田舎人　連尺

星ぼしに強す迎も月まろ　樗雲

乃少年矢とかる年の毒赤　徳英

かくてゆれ家彩ゆれや赤鄕　國香

蕨人ぬ牛入さやくすくるる　竹堂

綿猪の麻を蓑しる衣配り　湖十

煤牛や梢ぬ新る新ぬ　吾山

くに清に育つや事の変袁　杜谷

様よ凡こそ生を生しのち　一志

世の帰もかくしまの注松恵　甲州 南枝

燥掃やおもしろく来合うたる　　楽婦

守歳

良唱菴　氷室

うつろふ秋の季の網戸外

毎由菴　虎溪

法籍の眼もありや大こと日

、

京の余波惜しと初友の誘ひよ
お伐戻ろいの夜まの文字

書波や水かすり流る間もあるを　　指象坊

来年の暦もしらぬ燈さしを元

彫刻　杭州

下